

SÃO PAULO にて...

翼(つばさ)で~す。みなさま、おひさしゅうございま~す! 新人さんの方々、はじめまして~! まずは、浅草おめでとうございませう!!! 審査発表、ほぼライブで知りました。自宅で一人、久々のおいしいビールを飲み、いまずぐ打ち上げ会場にかけつけたい気持ちでいっぱいになりました。

今年の新年会のまさに翌日にブラジルへ飛び出し、日本のことは忘れて、ブラジルの地で漬物のようになろうかと考えていましたが、やはり僕は日本人ですね。「日本」という国は決して切り離せないものだと思っています。Liberdade のみんなのことが、気になって気になって仕方がありません。こちらのブラジル人達にもよくLiberdade のことを話します。改めて思うんです。この場所が日常を潤し、また日常がこの場を潤していたこと。「幸せ」を分けてもらっていたなあって。ブラジルに来て、どれだけ大きな存在になっていたことか。sambaに出逢ってから、そろそろ3年になるのですが、今の自分は言うまでもなくLiberdade での延長上にいます。みんなのことが大好きだってことだけ、先に伝えさせてください。そして大変感謝しています。



2004年8月28日(浅草)
表彰式にて諏訪典恵さんと撮影。M.S./P.B.として初めて浅草サンバカーニバルに参加しました。

そんな照れくさいことを言いながら、ろくに連絡もせずに申し訳ないです...。仕事で忙しいのもありますが、何を報告してよいものかと...。ブラジルにいるのに、自宅と職場の往復の生活で...、ライブとかに一度も遊びに行ったこともないし...(ほんと、今でも) sambaも日常にないとか...、そういう葛藤も色々あったんです。escola de samba に関してはシーズンオフでしたから、当たり前のことだけれども、それでもこう、エネルギーのやり場がないというか。そんなこんなだったんです。ただ、人にはその時その時、やるべきことがあるようにできていますので、日常をいかに精一杯生きるか(できれば楽しくね) それは歳を重ねても、どこにいても続けていかないと、と日々思い、またそうしてきたつもりです。そして今、samba に関してはこの上ない活動ができています。と...、前置きが長くなってしまいましたが、このたび、ブラジルでの小話など、Liberdade News で報告を! という依頼を受けましたので、この機会を使わせていただき、こちらの日常をお伝えしようかと思えます。まずは現状を...

住まい

僕がいるところは São Paulo 市内の Casa Verde (カザ・ヴェルヂ) という郊外の町です。住居はアパートで一人暮らしです。職場の責任者が用意してくれたのですが、家族でも住めるような広いところでは、お金のない身ですので最低限のモノ以外なんにもありません。冬は室内が寒くて寒くて仕方がありませんでした。イメージしづらいと思いますが、São Paulo も冬になれば朝と夜は寒いんですよ。暖房器具もありませんし、室内でもいつもダウンジャケットを着ていました。料理は最初の2ヶ月は楽しみにすらしていましたが、今はだめだめな一般的な一人暮らしの男です。自宅付近は安全なところで、気を緩めているつもりはありませんが、危ない気配を感じることはほとんどありません。警察署が近所にあるのも心強い。交通の便もよくなって、Centro (中心街) まで30分ぐらい。また、この辺は sambódromo が近いのもあり、escola de samba が集まっています。10ぐらいの escola は家からバスで気軽に行ける距離です。土日仕事関係で動けないことが多いのですが、たまに時間が空いた休日には、sambódromo まで散歩しに行ったり、escola

に遊びに行ったりと、できるだけ「samba な環境」を感じられるようにしていました。とにかく、冷静に考えてみると、なんてよいところに仕事が配属されたことか。ここは自分が選んだ場所ではないんです。

仕事

職場は保育園・幼稚園に併設された日本語学校で、僕は日本語教師として日々汗を流しています。日本移民がブラジル社会に溶け込み、子どものための日本語学校が閉校されていくこの時代に、生徒数が増え、新校舎を新設するなど、非常に活発的で注目されている新しい学校です。ブラジルの学校は基本的に午前か午後のみ(!)なので、生徒はそれに重ならない時間に「習い事」として通学します。正確に言えば、親に通わされていると言ったほうがよいでしょうか。日系の家族のほとんどは家庭で日本語を使用しなくなっているため、0から(つまり「わたしのなまえは です」)から学ぶ生徒がほとんどです。ごく稀に、祖父母と日本語を使用するために日本語が流暢な生徒もいます。面白いですよ。「サンバは好かん!」とか、身内の出身地の言葉を話しますから。

SAMBA

さてさて、皆様に関心のあると思われる samba の話です。僕の所属 escola は carnaval 2005 のチャンピオン、「Império de Casa Verde(インペリオ・ヂ・カザ・ヴェルヂ)」です。2002 年に grupo especial に昇格し、昨年は 3 位、そして今年優勝するという恐ろしい勢いを備えた escola です。また、自宅から一番近所の escola でもあります。チームカラーは青と白、シンボルはトラ、quadra は決して大きくありませんが、他の escola と比べると派手かつ豪華な雰囲気を感じられます。今年のテーマは簡単にいうと「O boi do Brasil (ブラジルの牛)」です。僕のポジションは Mestre-Sala。日系ブラジル人を含めても、日本人の関係者は自分がはじめてだそうです。そういった意味でも、僕にとって、この活動は日系社会、そしてブラジル社会の歴史に参加する大切なものになるとも思います。優勝 escola の Mestre-Sala としてのプレッシャーもありますが、escola に貢献し、純粋に、幸せいっぱい、そして精一杯楽しんでいこうと思います。



とりあえず現状を簡単にご紹介しました。次回からは、こちらで経験したことを少しずつ書き綴らせてもらいたいと思っています。まずは carnaval 2006 ですね。まあ、それ以外にも、ブラジルにいますからビックリすることや、関心すること、呆れることなどたくさんあります。おーゆみさんの「サンバ化日記」のエッセイのような素敵な言葉を重ねることはできないかもしれませんが、少しずつこちらの日常をご報告したいと思います。隠れタイトル「ツバカ日記」なんちって(笑) ではでは~。



翼 São Paulo にて

2005 年 12 月 2 日 (Sambódromo / São Paulo)
Simone (1st P.B.) と撮影。この日は Jairo (1st M.S.)
の代理で「o dia do samba」のイベントに参加しました。